

三芳町小中学校再編計画

令和7年9月

三芳町教育委員会

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1 計画の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
(1) 上富小学校と三芳小学校の再編について	
(2) 竹間沢小学校と唐沢小学校の再編について	
(3) 町立3中学校の再編について	
2 再編の実施方法等・・・・・・・・・・	3
(1) 再編の背景・・・・・・・・・・	3
① 町内小中学校の児童生徒数の推計・・・・・・・・	3
② 上富小学校と三芳小学校の状況・・・・・・・・	4
③ 再編の必要性・・・・・・・・・・	5
(2) 再編の計画・・・・・・・・・・	6
① 上富小学校と三芳小学校	
ア 再編により期待される効果・・・・・・・・	6
(ア) 再編について配慮事項・・・・・・・・	7
a 通学方法・・・・・・・・・・	7
b 心のケア・・・・・・・・・・	8
c 放課後の居場所づくり・・・・・・・・	8
d 指導体制の工夫・・・・・・・・・・	9
e 特色ある教育活動・・・・・・・・	9
f 学校指定の物品等・・・・・・・・	9
(イ) 学校準備委員会・・・・・・・・・・	10
(ウ) その他・・・・・・・・・・	10
② 竹間沢小学校と唐沢小学校・・・・・・・・	10
③ 町立3中学校・・・・・・・・・・	11
(3) 計画期間・・・・・・・・・・	11

はじめに

近年では、少子高齢化の流れから学校の小規模化が進んでいます。

三芳町においても、人口減少及び少子化等の将来的な見通しや学校施設の老朽化等を踏まえ、限りある財源の中で望ましい学校教育環境を整備することなどへの対応が必要となってきました。

三芳町教育委員会では、町の将来を担う子どもたちによりよい教育環境を実現するため、令和4年5月に外部識者による学校再編検討委員会を立ち上げ、令和4年12月に「適正規模適正配置の報告書」をいただきました。それに基づき、令和5年2月に「適正規模適正配置基本方針」(以下、「基本方針」)を策定しました。

この基本方針を基に、学校再編等審議会に対して、令和5年7月には、三芳町及び三芳町教育委員会から、基本方針の該当校である「上富小学校」「竹間沢小学校」「三芳町立各中学校」の再編時期を含めた学校再編について諮問し、計11回にわたって審議を重ねました。そして、令和7年2月に、三芳町と三芳町教育委員会に、以下のとおり「三芳町立小中学校の再編について(答申)」(以下、「答申」)をいただきました。

- ・上富小学校を三芳小学校に令和10年度を目途に統合する。
- ・竹間沢小学校の再編については保留とする。
- ・三芳町立各中学校の再編については保留とする。

「三芳町小中学校再編計画」を策定するにあたっては、答申の内容を尊重するとともに、保護者、地域住民、子どもたちの意見を聞くことが重要と考え、上富小学校在籍・就学予定世帯保護者、各中学校区保護者、地域住民、上富小学校・三芳小学校の子どもたちへの説明会や意見聴取会を実施しました。

また、上富小学校在籍・就学予定世帯保護者に対しては、アンケート調査も行いました。

このことを受け、「三芳町小中学校再編計画」を策定するものです。

1 計画の概要

(1) 上富小学校と三芳小学校の再編について

- ①再編対象校 上富小学校を三芳小学校に統合する。
- ②再編の時期 令和10年4月1日に統合を行う。
- ③通学方法 通学方法については、スクールバス及び徒歩とする。
- ④心のケア 再編による児童の心理的な不安を解消するため、両校児童の交流を行う。教員や保護者同士の情報交換等を通じて、円滑な統合を目指す。
- ⑤その他 再編に係る検討事項は、令和8年4月から2年間設置予定の「学校準備委員会」において協議する。

(2) 竹間沢小学校と唐沢小学校の再編について

令和10年度に「(仮称)竹間沢小学校及び唐沢小学校の再編に関する検討委員会」を設置し、再編について協議する。

(3) 町立3中学校の再編について

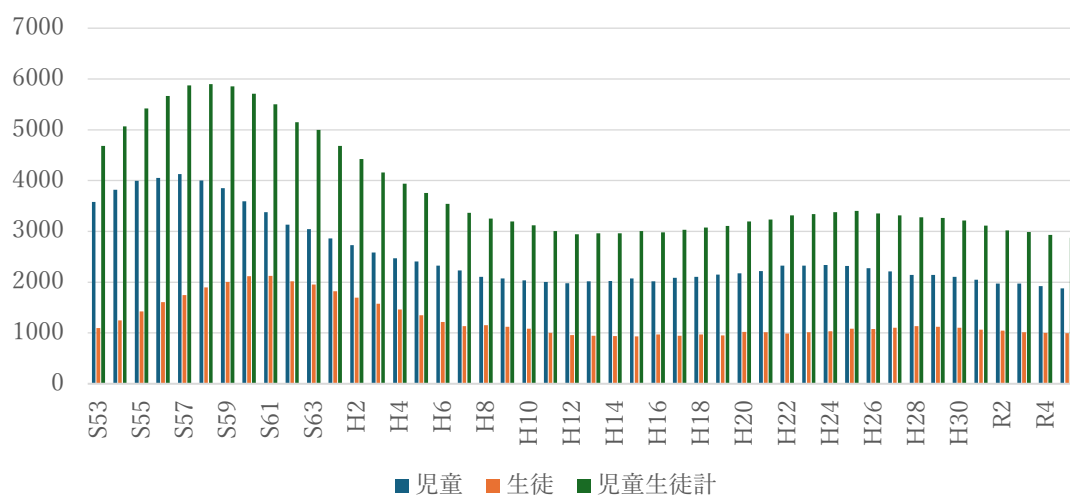
令和12年度以降に、「(仮称)中学校の再編に関する検討委員会」を設置し、町立3中学校の再編について協議する。

2 再編の実施方法等

(1) 再編の背景

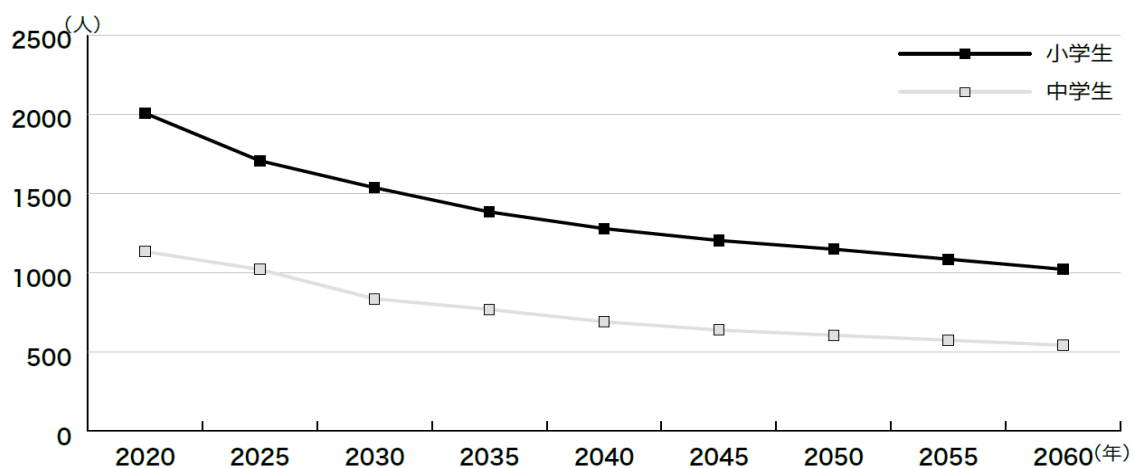
①町内小中学校の児童生徒数の推移及び将来推計

児童生徒数の推移を見ていくと、学校が多く建築された昭和50年代にピークを迎え、令和5年にはピーク時の約半分になっています。



下図は令和元年度の人口を基準とした、2060年度までの児童生徒数の推計を表しています。2020年から2060年までの40年間で、およそ半減となる見込みです。

※令和元年度の人口を基準とし、コーホート要因を用いて作成。



②上富小学校と三芳小学校の状況(令和7年4月1日現在)

上富小学校は、令和7年4月時点で全校児童数90人、令和11年度入学予定者数が5人で全校児童数は75名と見込まれています。また、上富地区はほぼ全域が市街化調整区域であり、今後の住宅開発や人口増、それに伴う児童増が見込まれにくい状況です。

三芳小学校は、令和7年度から令和10年度までの3年間で全校児童数が356人から264人と、92人の減少が見込まれています。

両校ともに、今後も児童数が減り続けていく見込みで、特に上富小学校においては、1クラス当たりの人数が減っていく見込みであることから、令和10年度に再編できるよう準備を進めていく必要があると考えます。

上富小学校の児童数・学級数の推計

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
1年	1(12)	1(12)	1(16)	1(14)	1(5)	1(13)
2年	1(16)	1(12)	1(12)	1(16)	1(14)	1(5)
3年	1(14)	1(16)	1(12)	1(12)	1(16)	1(14)
4年	1(20)	1(14)	1(16)	1(12)	1(12)	1(16)
5年	1(19)	1(20)	1(14)	1(16)	1(12)	1(12)
6年	1(9)	1(19)	1(20)	1(14)	1(16)	1(12)
合計	6(90)	6(93)	6(90)	6(84)	6(75)	6(72)

三芳小学校の児童数・学級数の推計

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
1年	2(44)	1(30)	2(39)	2(41)	1(26)	1(34)
2年	2(51)	2(44)	1(30)	2(39)	2(41)	1(26)
3年	2(59)	2(51)	2(44)	1(30)	2(39)	2(41)
4年	2(66)	2(59)	2(51)	2(44)	1(30)	2(39)
5年	3(71)	2(66)	2(59)	2(51)	2(44)	1(30)
6年	2(65)	3(71)	2(66)	2(59)	2(51)	2(44)
特支	2(11)	(9)	(6)	(3)	(3)	(2)
合計	15(367)	12(330)	11(295)	11(267)	10(234)	9(216)

※令和8年度以降の学級数は、特別支援学級を含まない。

両校が統合すると、ほぼ全ての学年で複数学級となり、クラス替えが可能になり、多様な集団活動や授業展開等が期待されます。

統合後の学校の児童数・学級数の見込み（特別支援学級を含まない）

	R10	R11	R12	R13
1年	2(55)	1(31)	2(47)	2(38)
2年	2(55)	2(55)	1(31)	2(47)
3年	2(42)	2(55)	2(55)	1(31)
4年	2(56)	2(42)	2(55)	2(55)
5年	2(67)	2(56)	2(42)	2(55)
6年	3(73)	2(67)	2(56)	2(42)
合計	13(348)	11(306)	11(286)	11(268)

③再編の必要性

少子化の将来的な見通しにより、学校の小規模化が進む見込みです。

小規模校には、きめ細やかな指導や人間関係が深まりやすいなどのよさがある一方、集団の中で多様な考え方に触れたり切磋琢磨する機会が少なくなる、人間関係が固定化しやすくなる等の課題もあります。

また、教育委員会では三芳町教育大綱に基づき、予測困難な社会においても自分の可能性を発揮し、人と協力してよりよい未来を築く力を育てる教育政策「MOVEプラン」を推進しています。「MOVEプラン」では、「子どもを主語にする授業」「探究的な学び」「非認知能力の育成」に取り組み、子どもたちに「学びに向かう力」を育てることを目標に掲げています。この目標を実現するためには、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができる教育環境を提供する必要があります。学校再編により、多くの教員による多様な指導形態や児童同士の様々な見方・考え方にふれる授業展開が可能となり、「学びに向かう力」の育成が期待できます。

上富小学校在籍・就学予定世帯保護者へのアンケート調査では、「上富小学校と三芳小学校が統合することについての考え」で、全体で62.2%、在校生家庭で54.5%、未就学児のみの家庭で83.4%の方が、「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」と回答されました。

さらに、上富小学校と三芳小学校の児童に対する意見聴取では、学校がいっしょになったら「お友達が増えるのが楽しみ」「新しい友達もできるし、違う学年の人も友達になれてうれしくなる」といった声もありました。

こうしたことから、子どもたちに望ましい教育環境を提供するため、一定の学校規模を維持し、学校再編を検討する必要があると考えます。

《参考》「適正規模適正配置基本方針」（令和5年2月策定）より抜粋

(1) 学校の適正規模の基準

【小学校】 1学年2学級以上

多様な考え方に触れるとともに、新たな人間関係を築くため、クラス替えが可能である

【中学校】 全学年で12学級以上

小学校と同様にクラス替えが可能であるとともに、全ての教科で専門の教員数を確保できる

(2) 学校の適正配置の基準

【小学校】 おおむね3km 程度

【中学校】 おおむね4km 程度

上記の距離を超過する場合は、安全面に配慮した通学方法について検討する

(2) 再編の計画

① 上富小学校と三芳小学校

・令和10年4月1日に、上富小学校を三芳小学校に統合する。

ア 再編により期待される効果

学校再編により、小規模校を解消することで、次のような効果が期待されます。

- ・人間関係の固定化が解消される
(クラス替えが可能、男女比のバランス)
- ・日常的にコミュニケーションの機会が増える
- ・多様な種目や形態での集団活動ができる
(体育・音楽・学校行事など)
- ・クラブや委員会で、児童の興味関心に応じた活動の場が確保できる

- ・協働的な学習が充実して、多くの意見や考え方に触れ、多面的に物事を考えられる
- ・児童から多様な発言を引き出して、より深い学びにつながる授業展開ができる
- ・習熟度別学習・グループでの発表会など多様な指導形態をとりやすい
- ・校内の特別支援学級や通級指導教室を活用し、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな指導ができる

(ア)再編についての配慮事項

本計画を策定するにあたっては、保護者や地域住民、上富小学校と三芳小学校の児童から、たくさんのご意見やご質問をいただきました。ご意見を踏まえ、以下のとおり配慮事項を検討しております。

a.通学方法

【主なご意見】

(上富小児童)学校までの道が長くなる。

(三芳小児童)上富小の子が歩くのが大変そう。

(保護者)

- ・スクールバスによる通学を検討してほしい。
- ・子どもたちが安心して安全に学校へ通える環境づくりを考えてもらいたい。

【対処方法】

上富小学校と三芳小学校の統合に関して、通学方法は以下のとおりとする。

- ・通学方法については、スクールバス及び徒歩とする。
- ・登校時については、所定の場所に徒歩で集合し、そこからスクールバスで登校する。
- ・下校時については、学年の終業時刻に合わせたバスの運行を検討する。

上富小学校区の児童の通学距離が延びることが想定されるため、三芳小学校から一定距離以上に居住する上富小学校区の児童については、スクールバスにより通学する。バスの利用に関する諸課題については、今後検討する。

b.心のケア等

【主なご意見】

(上富小児童) 友達が増えるのが楽しみ。新しいことができる。

仲良くできるか心配。いじめにあわないか心配。

(三芳小児童) 歓迎会、交流会、学校探検をやりたい。

けんかが多くなるか心配。仲間外れにされないか心配。

(保護者)

- ・一人ひとりが相談しやすい環境を作してほしい。
- ・新しい学校になるという雰囲気にしてほしい。三芳小としてただ、転入生がたくさん来たという感じにはなってほしくない。
- ・保護者同士の接点や話をする場も必要。PTA の在り方等、互いに理解が必要だと思う。
- ・統合することで、上富小の知っている先生がみんないなくなってしまうと、頼れる大人がいなくなってしまう。

【対処方法】

学校相互の様々な交流活動の展開、保護者の交流の機会の確保、学校における教職員人事の配慮、いじめや不登校対応、心理士等による教育相談体制の充実などを実施し、児童や保護者の心のケアを行う。

c.放課後の居場所づくり

学童保育室や放課後子ども教室など、放課後の安全で楽しく過ごせる居場所を確保する。

d.指導体制の工夫

【主なご意見】

(保護者)少人数の方が、目が行き届きやすいと思う。

上富小学校では、少人数の良さを生かした教育を推進している反面、教員数が少ないため多様な指導体制を取ることが難しいという課題もある。児童数の増加が教員の定数や加配数の増加につながるため、習熟度別指導や教科担任制など、指導体制の充実が図られるように検討する。

※教員加配とは、学級担任等の基本的な教員定数に加えて、特別な教育的ニーズを持つ児童生徒への対応や、少人数指導の実施など、よりきめ細かな指導を実施するために、追加で教員を配置する制度のこと。

e.特色ある教育活動

【主なご意見】

(上富小児童)三芳小でも上富小の行事を取り入れてほしい。

(三芳小児童)新しいイベントを増やす。ビオトープをみんなに教えたい。

(保護者)上富小のよさも生かしながら統合できるような交流ができる
とよい。

現在、それぞれの学校の特色やよさを活かした教育活動を展開している。統合することにより、さらによりよい教育活動を展開できるように、子どもや保護者、教職員、地域住民の意見を踏まえて検討する。

f.学校指定の物品等

【主なご意見】

(保護者)統合する際、上富小の児童の体操着等の学用品は町で負担してもらえるとよい。

学校指定の物品等は、保護者に多大な経済的負担が生じないように配慮することを検討し、未就学児の保護者を含め早めに周知する。

(イ) 学校準備委員会

教職員、保護者代表等を中心に組織する「学校準備委員会」を立ち上げ、学校統合に係る検討事項について、3つの検討部会を設置し、統合が円滑に進むよう、協議を進めていく。

《主な検討事項》

【総務部会】 学用品、放課後、記念事業、PTA 組織/事業など

【通学部会】 通学路、通学方法など

【教育部会】 教育計画、心のケア、交流行事など

(ウ) その他

学校統合に係る諸課題については、関係部局と情報共有を図りながら連携し、検討を進めていく。

② 竹間沢小学校と唐沢小学校

令和10年度に「(仮称)竹間沢小学校及び唐沢小学校の再編に関する検討委員会」を設置し、再編について協議する。

竹間沢小学校は比較的緩やかな児童数の減少であり、令和7年4月時点で令和12年度の新入学生は35人で全校児童数186人と見込まれます。

基本方針の基準(1学年2学級以上)を満たす学年は令和7年度時点で1学年のみで、協働的な学びの充実や多様な人間関係の形成などといった点において、状況は上富小学校と同様であると言えます。

しかしながら、竹間沢小学校区には市街化区域もあり、新築大型マンションも完成するなど、上富との地域特性の違いから、今後人口増及び児童数増の可能性も見込まれます。

竹間沢小学校の児童数・学級数の将来推計（令和7年4月1日時点）

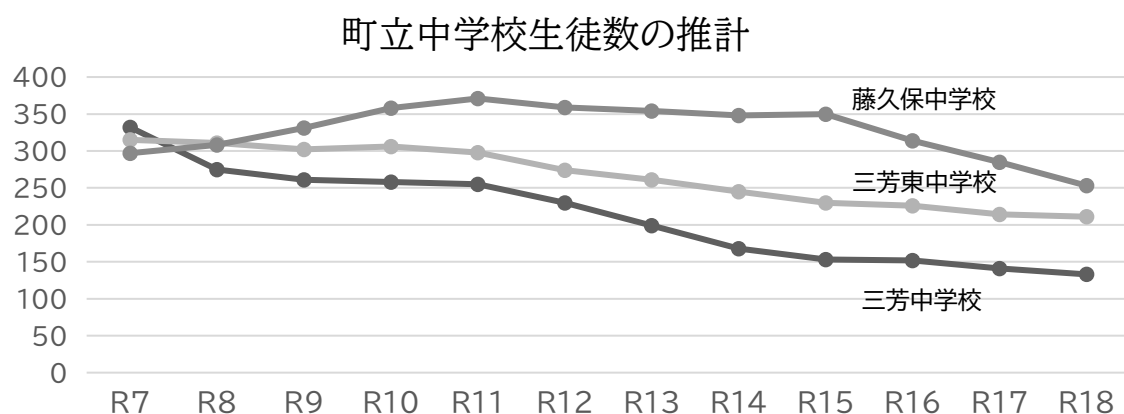
	R7	R8	R9	R10	R11	R12
1年	1(32)	1(33)	1(28)	1(29)	1(27)	1(35)
2年	1(26)	1(32)	1(33)	1(28)	1(29)	1(27)
3年	1(30)	1(26)	1(32)	1(33)	1(28)	1(29)
4年	1(34)	1(30)	1(26)	1(32)	1(33)	1(28)
5年	2(36)	1(34)	1(30)	1(26)	1(32)	1(33)
6年	1(24)	2(36)	1(34)	1(30)	1(26)	1(32)
特支	2(8)	(8)	(7)	(7)	(4)	(2)
合計	9(190)	7(199)	6(190)	6(185)	6(179)	6(186)

③町立3中学校

令和12年度以降に「(仮称)中学校の再編に関する検討委員会」を設置し、町立3中学校の再編について協議する。

各中学校については、藤久保中学校の生徒数が令和11年度まで増加傾向にあるものの、令和12年度以降は減少傾向に転じ、三芳中学校と三芳東中学校は減少の見込みです。

今後の児童生徒数の推移を把握しながら、中学校の再編について検討を進めていきます。



(3) 計画期間

「三芳町小中学校再編計画」の計画期間は、令和12年度までの5年間とします。